

# RETAILER ACADEMY NEWS

Oct 2020 | Bentley Motors Japan



## フライングスパー V8を発表 ドライバーズカーとしての価値を高める俊敏性に磨き

ベントレー モーターズはこのほど、フライングスパー V8を発表しました。V8モデルはW12モデルと比べて約120kgも軽量化を図るなど、俊敏性に磨きをかけてドライバーズカーとしての価値を高めています。

過去10年間の調査によると、フライングスパーの用途は、ショーファードリブンから自分でステアリングを握って後席に人を乗せるお客様が増加するという大きな変化が見られています。グローバルリサーチ（アメリカと中国の2カ国での顧客調査を含む）でも、お客様の40%以上が少なくとも週に1回は後席に人を乗せてドライブしていることが分かりました。このデータは、4ドアグランドツアラーを開発するにあたって大きな参考となり、絶妙なラグジュアリーと最新世代のテクノロジーを組み合わせたキャビンを維持しながら、ドライバー体験にフォーカスすることになったのです。

### フライングスパー V8の特徴

フライングスパー V8は、最高出力550ps、最大トルク770Nmを発揮する4.0リッター V8ツインターボエンジンを搭載。最高速度は318km/h、0-100km/h加速は4.1秒というパフォーマンスを誇ります。その一方で、巡航時や大きなパワーを必要としない場面では、8本のうち半分にあたる4本のシリンダーを停止する気筒休止システムを備えています。これにより、航続距離は約640kmとなり、CO2排出量も削減されます。

また、W12モデルと比較して約120kgもの軽量化に成功。その結果、俊敏性と応答性が大幅にアップし、フライングスパー V8特有のキャラクターとなっています。このキャラクターをもたらし、最高のハンドリングを提供する標準装備の軽量アンチロールバーです。もちろん、48Vシステムを活用した電動アクティブアンチロールコントロールシステムのベントレー ダイナミック ライドもオプションとして設定。さらに高いレベルで両立させたハンドリングと乗り心地を提供します。

### V8モデル専用内外装

外観ではW12モデルと異なるV8モデル専用装備があります。まずはグロスブラックのマトリックスグリルです。もう1つは、フロントフェ

ンダー下部に装着されるクロームの「V8」バッジで、エグゾーストパイプもデュアルツインとなります。さらに標準仕様で20インチ10スポークアロイホイール（ペイント仕上）が装着されます。ボディカラーは標準が7色で、60色以上がオプションカラーとして設定されています。

内装は、比類のないラグジュアリーとイノベーションを具現化したモダンなインテリアに仕上げました。標準カースプリットはモノトーンの「D」で、選択できるレザーカラーは5色です。ウッドパネルはクラウンカットウォールナットが標準仕様となります。



### ■ フライングスパー V8とW12の比較

	フライングスパー V8	フライングスパー W12
パワートレイン		
エンジン	4.0リッター V8ツインターボ	6.0リッター W12ツインターボ
最高出力	550 ps@6,000 rpm	635 ps@5,000-6,000 rpm
最大トルク	770 Nm@2,000-4,500 rpm	900 Nm@1,350-4,500
0-100km/h加速	4.1 秒	3.8 秒
最高速度	318km/h	333km/h
標準エクステリア		
ボディカラー	7色	17色
ホイール	20インチ10スポーク	21インチ10ツインスポーク
標準インテリア		
カースプリット	Dのみ	A、B、D
レザーカラー	5色	15色
ウッドパネル	クラウンカットウォールナット	クラウンカットウォールナット

※数値は欧州参考値です。





## 日本市場に電気自動車を初導入 アウディ e-tron スポーツバック

アウディ ジャパンは、日本初導入となる電気自動車、アウディ e-tron スポーツバックを2020年9月17日に発売しました。アウディ e-tronはグループ内のプレミアムブランドを代表するEVで、今後、その技術がベントレーの車両にも応用される可能性があります。

### アウディ e-tron スポーツバックのまとめ

- 日本市場におけるアウディの電動化攻勢の第一弾。続いてアウディ e-tron SUVを導入予定
- 2基の電気モーターを搭載し、システム最大出力は300kW
- 航続可能距離は最大405km (WLTCモード)
- 普通充電に加え、CHAdeMO 規格の急速充電に対応
- 同社初の装備としてバーチャルエクステリアミラーを設定
- さまざまな特別装備を施した日本導入記念限定モデルから販売を開始

### 技術的な特徴

- 2基の電気モーターは、通常時は最高出力265kW・最大トルク561Nm、ブーストモード使用時には300kW・664Nmを発揮
- 0～100km/h加速は5.7秒 (Sモードのブースト時)
- 駆動方式は、2基の電気モーターがそれぞれ前輪と後輪を駆動する電動4WD
- 通常はリアモーターのみで走行。滑りやすい路面などで4WD走行が望ましい場合にはフロントモーターも駆動
- 駆動用バッテリーとして、容量95kWhの大容量リチウムイオンバッテリーを搭載



### エクステリアの特徴

- 低く弧を描くルーフラインにより、SUVクーペのスタイリッシュさを表現
- 同社SUVシリーズのQファミリーをイメージさせる8角形のシングルフレームグリルを採用。プラチナグレーのフレームで他のQファミリーと差別化
- e-tron特有のデザインとして、ヘッドライト下部に4本のデイトタイムランニングライトを装備
- スリムな形状のバーチャルエクステリアミラーにより空気抵抗を低減。Cd値は0.25を実現
- 日本導入記念限定モデルの1st editionでは、5Vスポークスターデザインの21インチアルミホイール、カラードブレーキキャリパーオレンジを特別装備



### インテリアの特徴

- 水平基調のダッシュボードの中央に、2つのMMIタッチレスポンスディスプレイを上下に配置
- インテリアに高電圧をイメージさせるオレンジカラーを採用することで、e-tronの個性を表現
- バーチャルエクステリアミラー装備車は、ダッシュパネルとドアとの間に設置されたOLEDディスプレイに後方の映像を表示
- 日本導入記念限定モデルの1st editionでは、サイレンスパッケージ (アコースティックサイドガラス、Bang & Olufsen 3D サウンドシステム、パワークロージングドア) を装備



### 主な充電仕様と提供されるサービス・キャンペーン

- AC 200Vの普通充電は、標準で3kW、オプションで8kWに対応
- CHAdeMO 規格の急速充電は、出力50kWまで対応
- バッテリーを0%から80%まで充電するための所要時間は、50kWの急速充電で1時間半
- 日本充電サービス (NCS) の公共充電ネットワークで利用可能な「e-tron Charging Service」を提供。普通充電を含む日本全国の約2万基以上の充電ステーションで充電が可能 (一年目のみ月会費5,000円と急速充電の従量料金一分15円が無料)
- 2020年12月末日までに成約および登録した場合は、8kW充電用の普通充電ユニット1基を無償提供。さらに充電設備工事にかかる費用のうち、16万円 (税抜) をサポート



### 価格

Audi e-tron Sportback 1st edition  
13,270,000円

Audi e-tron Sportback 1st edition  
バーチャルエクステリアミラー仕様  
13,460,000円



## COMPETITOR INFORMATION



### ニューモデル シボレー・コルベット

発表・発売日	2020年8月27日 発表
概要	<ul style="list-style-type: none"><li>・日本向けの仕様と価格が決定。495ps、637Nmを発揮する6.2L V8エンジンを搭載</li><li>・コルベット初の右ハンドル車を全モデルで導入。ラインアップはクーペ 2LT/クーペ 3LT/コンバーチブルの3種類</li><li>・コンバーチブルは、コルベット史上初となるリトラクタブルハードトップを採用</li></ul>
車両価格 (税込)	シボレー・コルベット クーペ 2LT： 11,800,000円 シボレー・コルベット クーペ 3LT： 14,000,000円 シボレー・コルベット コンバーチブル： 15,500,000円
デリバリー開始時期	2021年5月



### ニューモデル メルセデス・ベンツ Eクラス

発表・発売日	2020年9月10日 発売
概要	<ul style="list-style-type: none"><li>・エクステリアデザインを一新し、一部車種を除きAMGラインエクステリアを標準装備</li><li>・ステアリングホイールを新世代デザインに一新</li><li>・対話型インフォテインメントシステムのMBUXを新たに採用</li><li>・日本で販売される乗用車では初となるARナビゲーションを採用</li></ul>
車両価格 (税込)	主なラインアップ メルセデス・ベンツ E 350 de スポーツ： 9,180,000円 メルセデス・ベンツ E 450 4MATIC エクスクルーシブ： 11,440,000円 メルセデス・ベンツ E 220 d 4MATIC オールテレイン： 9,380,000円 メルセデス AMG E 63 S 4MATIC+ ステーションワゴン： 19,120,000円
デリバリー開始時期	—



### ニューモデル アウディ S8

発表・発売日	2020年8月25日 発売
概要	<ul style="list-style-type: none"><li>・S8専用デザインの前後バンパーを装備</li><li>・最高出力571ps、トルク800Nmを発揮する4.0L V8ツインターボエンジンを搭載</li><li>・48V マイルドハイブリッドドライブシステム(MHEV)の搭載により、圧倒的なパフォーマンスと環境性能を両立</li></ul>
車両価格 (税込)	アウディ S8：20,100,000円
デリバリー開始時期	—



### 一部改良 レンジローバー 2021年モデル

発表・発売日	2020年9月11日 受注開始
概要	<ul style="list-style-type: none"><li>・2021年モデル限定グレードとして、3種類のグレードを追加</li><li>・レンジローバー誕生50周年を記念した特別仕様車「レンジローバー・フィフティ」を38台限定で受注。初代モデルのヘリテージカラーも3種類設定し、日本向けには各色5台、計15台限定で用意</li></ul>
車両価格 (税込)	主なラインアップ RANGE ROVER WESTMINSTER (3.0L V6ディーゼル)： 15,530,000円 RANGE ROVER WESTMINSTER BLACK (3.0L V6ディーゼル)： 15,530,000円 RANGE ROVER SVAUTOBIOGRAPHY DYNAMIC BLACK (5.0L V8ガソリン)： 26,320,000円 RANGE ROVER Fifty (ヘリテージカラー)： 24,688,000円
デリバリー開始時期	—



### ニューモデル アウディ S6 / S6 Avant / S7 Sportback

発表・発売日	2020年9月15日 発売
概要	<ul style="list-style-type: none"><li>・Sモデル専用デザインの前後バンパーを装備</li><li>・最高出力450ps、最大トルク600Nmを発揮する2.9L V6ターボエンジンを搭載</li><li>・48V マイルドハイブリッドドライブシステム(MHEV)の搭載により、圧倒的なパフォーマンスと環境性能を両立</li></ul>
車両価格 (税込)	アウディ S6： 13,030,000円 アウディ S6 Avant： 13,390,000円 アウディ S7 Sportback： 13,740,000円
デリバリー開始時期	—



### 一部改良 レクサスRC / RC F

発表・発売日	2020年7月16日 予約受注開始
概要	<ul style="list-style-type: none"><li>・RCは、ボディ剛性の強化とばね下質量の低減により、縦性安定性と乗り心地の向上を実現。また安全装備を充実</li><li>・RC Fは、スマートフォンとマルチメディアシステムとの連携による利便性の向上、クリアランスソナー&amp;バックソナーを全車標準装備</li></ul>
車両価格 (税込)	主なラインアップ レクサス RC350“F SPORT”： 7,307,000円 レクサス RC F： 10,420,000円 レクサス RC F“Carbon Exterior package”： 11,220,000円 レクサス RC F“Performance package”： 14,320,000円
デリバリー開始時期	—

## CRAFTSMANSHIP

## 顕微鏡レベルの仕事を行う ベントレーの計測チーム

ベントレー モーターズのクレー工場の最深部には、訪問する人は決して見る事ができない、広くて空調を完備したワークショップがあります。そこには、宇宙開発関連施設や大学の科学実験室にあるような精密機器が並んでいます。計測部門責任者のマイケル・ストックデルと25人のスタッフが、ベントレーのあらゆる部分を最高水準の精度で計測しているのが、このラボなのです。

計測学は測定の科学であり、各コンポーネントが一貫して正確な寸法で作られていることは、ベントレーの品質、パフォーマンス、そして製品寿命の基礎的な要件です。ストックデルと彼のチームは、小さなワッシャーからボディパネル、インテリアトリムに至るまで、



ベントレーが製造するすべてのパーツを測定しているため、厳しく規定された公差内に収まっているのです。ストックデルは、「レーザーの粒子からシリンダーボアの表面まで、数分の1ミクロンまで、あらゆるものを測定する機器があります」と語っています。

コンポーネントは個別に測定された後、サブアセンブリとして再度測定され、完成車の一部としてもう1度測定されます。したがって、計測チームはほぼ完全な再現性を確保するうえで、重要な役割を果たしているのです。

最高水準の精度での測定を実施することは、複数のコンポーネントを組み合わせて作られる自動車にとって特に重要です。一例を挙げると、フライングスパーの格納式フライングBマスコットは、複雑なコントロールアセンブリの各コンポーネントが一貫して同じ寸法で

作られているために、スムーズに展開および格納できるのです。キーレスエントリーと連動して、ドライバーが車両に近づくと点灯しますが、事故発生時にも自動的に格納される必要があります。この正確な作動を実現し、マスコットの台座内の中央部に完璧に配置されるようにするには、公差はわずか0.15mm以内と規定されているのです。

クレーを訪れる人が計測ラボを見ることはなく、ベントレーのオーナーも、ご自身の車両のどこに計測チームの仕事が現れているかを認識することはありません。それでもベントレーの外観やパフォーマンス、持続性は、各コンポーネントが極めて正確に計測されて組み立てられた結果なのです。その意味では、計測チームは隠れたヒーローと言えるでしょう。



# コンチネンタルGTマリナーを発表

## 究極のラグジュアリー グランドツアラー

ベントレー モーターズはこのほど、コンチネンタルGTマリナーを発表しました。すでにコンチネンタルGTマリナー コンバーチブルを発表していましたが、新たにクーペもラインアップに追加。究極のラグジュアリー グランドツアラーとして、9月下旬に開催されたサロン・プリヴェで世界初公開されました。

## FEATURES

コンチネンタルGTマリナーの特徴

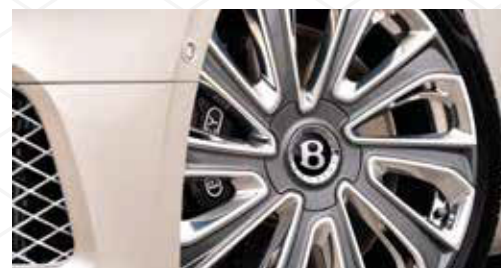
極上のエクステリアデザインは、コンチネンタルGTマリナーを通常のコンチネンタルシリーズとは大きく異なる存在にしています。あらゆる要素をすべて手作業で作り込んでおり、お客様に大満足いただけるように設計されています。キャビンもラグジュアリーさによって定義づけられたもので、マリナーだけが提供できるレベルのカスタマイズのショーケースとなっています。マリナーのクラフツマンが厳選した8種類のインテリアをはじめ、このモデル専用のディテールを随所に配しています。

エンジンはW12とV8のどちらを選ぶことも可能。V8モデルではオプションとなるベントレー ダイナミック ライドは、どちらのエンジンを選んでも標準装備されるため、最上級のレベルで両立したハンドリングと快適性を体感することができます。

## EXTERIOR

エクステリア

- ダブルダイヤモンド マトリックスグリル
- ダブルダイヤモンド サイドベント (マリナー ブランドネーム入り)
- 専用デザインのマリナー 22インチホイール (セルフレベリングバッド付き)
- サテンシルバー ミラーカバー
- マリナー ウェルカムランプ&イルミネーテッド ドアシル



## INTERIOR

インテリア

- 3色構成の専用カラースプリット (8種類の仕様を用意)
- マリナー ドライビング スペック標準装備
- 約400,000ステッチで仕上げたキルティング
- ダイヤモンド ミルド テクニカルフィニッシュのセンターコンソール
- 専用ブライトリング製車載クロック
- 車載クロックのデザインに合わせたメーターパネル
- ブランドネーム&コンチネンタルGTシルエット入りフェイスアパネル



## CHASSIS

シャシー

- ベントレー ダイナミック ライド標準装備



### コンチネンタルGTマリナー コンバーチブルは3色で仕上げられたトノカバーを装備

今年2月に発表されていたコンチネンタルGTマリナー コンバーチブルには、クーペと同様の専用内外装が採用されています。クーペと異なる点は2つ。1つ目は、フェイスアパネルに描かれるシルエットがコンバーチブルであることです。2つ目は、トノカバーのレザーがダイヤモンド イン ダイヤモンド キルティング仕上げとなっているのが大きな特徴であること。レザーカラーと2色のステッチを巧みに使い分けた3色で仕上げられています。トノカバーを装飾するのはベントレー史上初めて。ユニークでマリナーらしいラグジュアリーさを表現したモチーフです。



#### PRICE

コンチネンタルGT V8 マリナー  
¥33,473,000

コンチネンタルGT V8 マリナーコンバーチブル  
¥35,838,000

コンチネンタルGT マリナー  
¥34,430,000

コンチネンタルGT マリナー コンバーチブル  
¥37,059,000



# サロン・プリヴェで マリナーの3台がお披露目

9月下旬に開催されたサロン・プリヴェで、マリナーが手掛けた3台が披露されました。展示したのは、マリナーのコーチビルディング復帰第1弾となったバカラル、特別仕様車などを手掛けるコレクション部門が手掛けたコンチネンタルGTマリナー（詳細はP4を参照）、そしてクラシックカーのレストアなどを担当するクラシック部門が手掛ける1929年製ブロワーの現時点までに復元された一部です。

サロン・プリヴェの会場で、ベントレー モーターズのエイドリアン・ホールマーク会長兼CEOは、「マリナーには何世紀にもわたって培ってきた、コーチビルディングに関する豊富な歴史と専門的な知識があります。優れたクラフツマンシップと先見の明のあるデザインの品質は、マリナーの最新の製品を見ても明らかです。マリナーの使命は、最も目の肥えたベントレーのおお客様のご要望にお応えし、象徴的で忘れられないオーダーメイドのベントレーを提供することです。サロン・プリ



ヴェで紹介した3つの例は、伝統的なコーチビルディングが、現代の技術やサステイナブルな素材にどのように反映されるかを示し、今日ではどのラグジュアリーカーメーカーにも見られないデザインの能力があることも示しているのです」などとコメントしました。

なお、サロン・プリヴェへの出展は、ベントレーにとって久しぶりのライブイベント参加となりました。参加にあたっては、イベント主催者とともに徹底的な感染防止策を講じました。新型コロナウイルスの感染拡大を受け、ベントレーは英国の自動車業界で主導的な役割を果たしたことで広く認識されました。クルー本社および工場では250の変更が加えられ、生産を安全かつ効率的に再開し、生産能力も100%に戻しています。サロン・プリヴェのようなライブイベント参加にあっても、同様の細心の注意を払ったアプローチが適用されることになります。



## ENVIRONMENT

### クルー工場で建設中の新施設で トップアウトセレモニーを挙行



ベントレー モーターズのクルー本社で建設が進められてきた最先端のエンジニアリング試験施設が、公式にトップアウトセレモニー（上棟式）を終えて、完成に近づいています。新施設は2021年にオープン予定で、-10℃～40℃の範囲での試験設備や排出ガスを測定するための専用ラボなども設置されます。これにより、次世代のハイブリッド パワートレインのWLTP 燃費や排出ガスのテストを推し進めることが可能となります。

ベントレーのトップアウトセレモニーでは、最後の梁の取り付けを行うのが伝統ですが、今回はその代わりにベントレーの製造・エ

ンジニアリング部門の役員が、英国産のオークの木を植樹しました。

植樹を行ったマティアス・ラーベ取締役（エンジニアリング部門担当）は、「この新しい施設は、自動車業界をリードする近代的な工場をさらに強化し、ベントレーの電動化に向けた成長を可能にするものです。さらに重要なことは、電動化を急速に加速させる中で、独自のエンジンをテストするには独立性を確保できるようになる点です」などと植樹後に語りました。

同じく植樹を行ったピーター・ボッシュ取締役（マニュファクチャリング担当）は、「私たちは環境に配慮した活動も強化しています。昨年は100本の植樹を行っており（私自身はすべてに参加できたわけではありませんが）、生物多様性の模範となり、将来的にはサステイナブルなラグジュアリー モビリティをリードしていくことを目指しています」などと語りました。

## COLLECTION

### ファーバーカステルが新作を発表 ウルフ・バーナートへのオマージュ



ベントレー モーターズの草創期を語るうえで「伝説」となっているのが、1930年に初代ベントレー・ボーイズの1人であるウルフ・バーナートが行ったブルートレインとのレースです。このレースから90年という節目の年を記念し、ベントレーとパートナーシップを結ぶ高級筆記具メーカーのグラフ・フォン・ファーバーカステルが、このレースとバーナートへのオマージュとして、ユニークな筆記具セットを作成しました。

それぞれのペンは、軸にバーナートが活躍した時代のレーシングカーに用いられた「レーシンググリーン」を模したカラーを採用。ダイヤモンドパターンのローレット加工は、軸だけでなくキャップ先端にも施されています。また、キャップにはバーナートのサインをプリントし、特別感を高めています。

販売数はレースが行われた1930年にちなんで1,930セット。各ペンのネジリングには、エディションナンバーが刻印されています。ペンの種類は3種類で、幅がM、F、EF、Bから選べる万年筆と、スムーズな書き味のローラーボールペン、大容量リフィルを搭載したボールペンがラインアップされています。他には見られないコレクションのため、興味のありそうなお客様にぜひご紹介ください。

日本での販売や価格等の詳細については、現時点で未定です。決まり次第、あらためてベントレー モーターズ ジャパンよりご連絡いたします。



# 自動運転技術の現在地

クルマにまつわる技術は、とどまることなく進化し続けます。そのひとつが“夢の自動運転”につながる自動運転技術です。ベントレーのコンセプトカー「EXP 100GT」でも示された完全自動運転に向けて、現在の自動車業界の状況はどのようになっているのでしょうか。今回は、そんな自動運転技術の状況を説明します。



## 自動運転技術の目安となるレベルとは

自動運転と呼ぶ技術は、その内容に大きな差があります。そこで世界的に、できる内容を誰もが理解しやすいような0から5までのレベル分けが行われています。レベル0は、「何の自動運転技術のないもの」。レベル1は「前後、もしくは横の運転タスクをシステムが実施するもの」で、現在でいう「ACC（アダプティブ・クルーズ・コントロール）」が該当します。レベル2は、「前後と左右の2つのタスクをシステムが担当」するもので、ACCとLKA（レーン・キープ・アシスト）などのステアリングのアシストの2つが同時に作動するものとなります。レベル3は、システムが運転すべてを行います。何か突発的な問題などでシステムが運転継続できないときは、すぐに運転手が交代するというもの。レベル4は、高速道路などの限定的なシチュエーションで、システムがすべての運転操作を行います。問題が起きても人間が運転を代わることはありません。そしてレベル5は、すべての道でシステムがすべて運転する、いわゆる「夢の自動運転」そのものの状態です。

### ■ 自動運転化レベルの定義

レベル	名称	定義	安全運転の監視・対応
0	運転自動化なし	運転者がすべての運転タスクを実行	運転者
1	運転支援	システムが、縦、もしくは横方向のいずれかの運転タスクを実行	運転者
2	部分運転自動化	システムが、縦と横方向の両方の運転タスクを実行	運転者
3	条件付運転自動化	システムが、すべての運転タスクを実行。ただし、困難な場合は人間が対応	システム (困難時は運転者)
4	高度運転自動化	システムが、すべての運転タスクを実行。ただし、領域（走行場所）は限定される	システム
5	完全運転自動化	システムが、すべての運転タスクを、すべての領域（走行場所）で実行する	システム

※「自動車用運転自動化システムのレベル分類及び定義」（JASO TP18004（2018）等）を参照

## 世界の自動車メーカーの自動運転技術の現状

現在のベントレーの自動運転技術はACCのみということで、自動運転レベル1に相当します。ただし、最近の数年で、世界各国の自動車メーカーは数多くの車種にACCに加えて、ステアリングのアシスト機能を追加し、レベル2を実現しています。現状では、どこの国でもレベル2が最高で、レベル3以上は実証実験という状況にとどまります。ただし、BMW、日産、スバルは、ACCとステアリング・アシスト機能の併用時というレベル2の状態、ハンズ・オフと呼ぶ、手を離しても良いという機能を追加しています。日本で発売されるクルマの中では、ハンズ・オフ機能付きのレベル2というのが最も進んだ自動運転技術となります。



ACCとレーンキープのステアリング・アシスタント機能を同時に働かせた状態でステアリングから手を離してもよいという「ハンズ・オフ」が、現在の最も進んだ自動運転技術となります。

### ■ 主な自動車メーカー（車種）の自動化レベル

車種	レベル
ベントレー・ベンテイガ	レベル1
ロールスロイス・カリナン	レベル1
ランボルギーニ・ウルス	レベル2
アストンマーティン・DBX	レベル2
メルセデスベンツSクラス	レベル2
BMW 3シリーズ	レベル2 (ハンズオフ可)
アウディA7	レベル2
レクサスLS	レベル2
日産スカイライン	レベル2 (ハンズオフ可)
スバル・新型レヴォーグ	レベル2 (ハンズオフ可)

## 環境に優しく効率的な社会を実現する「MOBI（モビ）」のブロックチェーン技術

「MOBI（モビ）」とは、2018年に設立された「モビリティ・オープン・ブロックチェーン・イニシアチブ（Mobility Open Blockchain Initiative）」という、自動車産業におけるブロックチェーン技術の標準化と普及を進める非営利団体です。GMやフォード、BMW、ルノー、ホンダやデンソー、トヨタ・モビリティ・ファウンデーションなどが参加し、世界の自動車生産量の7割を占めるほどの大きな存在となっています。具体的には、クルマ1台ずつを区別する標準規格「VID Standard」の策定や、EVと送電網を統合するV2G技術の標準規格化などが発表されています。こうした技術の普及で、クルマ1台ずつへの正確な課金や、送電網の電力を一時的にEVに蓄え、電力需要が高くなったら送電網に戻すなど、より賢い電力利用も可能となります。環境に優しく効率的な新しい自動車社会の土台となる技術です。



EVが普及した未来は、送電網とEVを統合制御するV2G（ビークル・トゥ・グリッド）という構想が存在します。